

# 第13回 口腔機能って何だろう？

＝ 「口腔機能」は、肺炎や窒息に関係する ＝

北九州在宅医療・介護塾  
塾長 久保 哲郎

先々月と先月は、口腔機能と消化器系機能についてでしたが、今月は口腔機能と呼吸器系機能の関係についてご紹介させて戴きます。

先ず、口腔は気道の入り口に位置しているため、口腔機能の状態は呼吸器の機能にも関係してきます。

長期に「寝たきり状態」になると、下顎は後退し、舌は咽頭に沈下して固定され、また、分厚い顔面表情筋は後頭方向へ流れることで荷重が下顎前歯に掛かることになり、下顎前歯切端に下口唇が騎乗するように覆い被されてきます。そして、唾液嚥下時に下口唇を上顎前歯との間で挟んだ状態で開口すると、下顎前歯には咬合圧が掛かってくることになり、下顎前歯に掛かる筋の重力と咬合圧によって、下顎前歯は舌側へ傾斜してきます。

このような状態が長期に続くと、口腔内乾燥、下顎の開閉運動が不可能、舌が沈下した

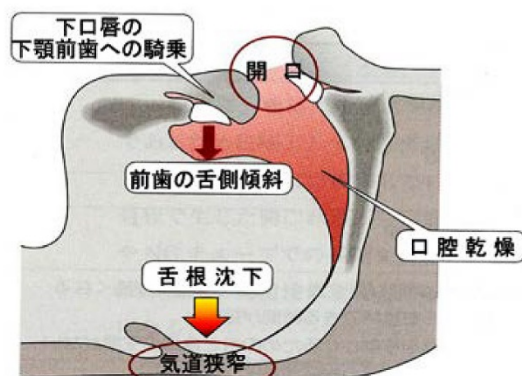
状態で拘縮してしまう結果を招き、「食べられない、飲み込めない」という状態に陥ってしまいます。

ところで、ビデオ嚥下造影検査によって「摂食・嚥下障害」に関する部位についてみると、準備期・口腔期では、口唇閉鎖不全や舌・頬・顎の運動機能低下による送り込み不全、咽頭期では、鼻咽腔閉鎖不全、喉頭蓋の嚥下反射遅延等が影響していることが解りました。

このような結果を踏まえて、寝たきり状態が長期間続くと下顎骨沈下によって「摂食・嚥下障害」が生じるようになり、この結果としてムセや窒息、誤嚥（誤嚥性肺炎、老人性肺炎）を引き起こしてしまいます。

口腔は鼻腔と共に呼吸をするための空気の出入り口にあたりますが、口腔機能の状態によっては呼吸器疾患を引き起こす原因になります。

## 「寝たきり」による口腔の変化



## 「誤嚥」に関する部位

